

第34回 新潟県スポーツ少年団軟式野球交流大会 新潟地区予選会 競技運営・大会特別規則

1 運用規則

全日本軟式野球連盟発行の競技者必携（2012年度版）「少年野球に関する事項」及び「2012年度公認野球規則」ならびに「競技運営・大会特別規則」による。

2 大会期間・日時

平成24年5月19日（土）～6月10日（日）までの土・日曜日
第1試合は午前9時00分から試合を開始する。

3 試合方法・試合回数

(1) 試合方法

- ・ 各試合ともトーナメント戦とする。

(2) 試合回数

- ・ 各試合とも7回戦とする。（1時間20分を過ぎて新しい回に入らない。）
- ・ 地区代表戦の準決勝、決勝は時間制限をしない。
- ・ ただし、5回以降7点以上の差が生じた場合は得点差によるコールドゲームとする。
- ・ それ以前の大差の場合、両監督による協議のうえ試合を打切ることがある。

4 延長戦

- (1) 延長戦を行わない。7回を終わって勝敗が決定しない場合、抽選にて勝敗を決定する。
- (2) 地区代表戦の準決勝、決勝は特別延長戦に入る。

※特別延長戦

継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁の走者は順次前の打者とする。すなわち無死満塁の状態にして1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお勝敗が決定しない場合は、抽選にて勝敗を決定する。

5 用具について

(1) 試合球について

全日本軟式野球連盟公認球 KENKO BALL C号ボールを使用する。（各チーム1試合に2個ずつ持ち寄る）

(2) バットについて

- ① 木製バットの他、接合バットを使用しても良い。
- ② 金属・ハイコン（複合バット）は全日本軟式野球連盟公認マークの付いているバットのみ使用できる。

(3) 捕手用具について

- ① 捕手は連盟公認のマスクを使用すること。
- ② 捕手は危険防止のため、必ずプロテクター、レガース、ヘルメットを着用すること。

(4) ヘルメットについて

試合中は、打者、次打者、走者及びベースコーチとも両側にイヤラップの付いたヘルメットを危険防止のため必ず着用すること。

6 変化球について

- (1) 投手は変化球を投げることを禁止する。
- (2) ペナルティーについて
 - ア 変化球に対してボールを宣言するとともに、投手に注意を与える。
 - イ 注意したにも関わらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げた場合はその投手を交代させる。その投手は他の守備位置につくことは許されるが大会期間中、投手として出場することはできない。
- (3) 故意の有無かは審判員が判断する。

7 投球制限について

本予選会においては投手の投球制限は特に定めないが、選手の健康維持を考慮し、1日7イニングまでを目安とすることが望ましい。

8 塁審

帯同審判制とし、必ず各チームより2名出すことを原則とする。

<1日2試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。

<1日3試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第1試合と第2試合の敗者チームから。

<1日4試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第4試合から。 第4試合＝第3試合から。

※ 地区代表戦の準決勝以上は、連盟審判員の3審制で行う。

※ 試合の記録については各試合の帯同審判員4名の内の1名が当たる。ただし、地区代表戦準決勝、決勝を除く。

9 大会運営委員

大会運営委員は、別途決める。

10 その他の注意事項

- (1) ベンチ内での携帯マイクの使用は禁止する。メガホンは監督のみ使用を認める。
- (2) 抗議は規則適用上の問題に限り、監督のみとする。(当該プレイヤーも可能)
- (3) 監督・コーチが同一イニングに同一投手の所へ2度行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。
- (4) ベンチは組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
- (5) 素振り用リングは抜ける危険があるので使用を禁止する。(グラウンドに持ち込まない)
- (6) 試合はスピーディーに行うこと。
- (7) バッテリー間の動きをスピーディーにすること。
- (8) ボールボーイは各チームから2名出すこと。(登録選手以外でも良い)